

長谷川 望 牧師

\* 「さて、過越の祭りの前のこと、イエスは、この世を去って父のみもとに行く、ご自分の時が来たことを知っておられた。そして、世にいるご自分の者たちを愛してきたイエスは、彼らを最後まで愛された。（ヨハネ13：1）知らないと否定され、逃げられても、イエスは弟子たちを「最後まで」（「徹底的に」という意味合い）愛された。それは「あなたの敵を愛しなさい」と言われたイエスなので、十字架への手引きをしたイスカリオテのユダも含まれているであろう。

\* 13章からのイエスの「訣別の説教」と言われる最初に「弟子たちの足を洗う」というストーリーがある。「洗足」の意味はまず、イエスが人の罪を取り除く、赦すということを予表している。（13：6～7）

ペテロはイエスに言った。「決して私の足を洗わないでください。」イエスは答えられた。「わたしがあなたを洗わなければ、あなたはわたしと関係ないことになります。」（13：8）私たちの身代わりに罪を背負って十字架にかかってくださったイエスを受け入れなければ、救い主イエスとの関係は何もない。信仰を告白してバプテスマを受ければ全身清くされる。

\* 「主であり、師であるこのわたしが、あなたがたの足を洗ったのであれば、あなたがたもまた、互いに足を洗い合わなければなりません。わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするようにと、あなたがたに模範を示したのです。」（13：14～15）もう一つの「洗足」の意味は、私たちが互いにしもべとなり、仕え合うことの模範である。弟子たちは、自分たちの中で誰が一番偉いかなどと議論していたほど、お互いに謙遜や思いやりにかけていたと思われる。師であり、主であるイエスが弟子たちの足を洗ったのであるから、私たちのお互いに足を洗う、すなわち互いに仕え合うことが当然のこととして求められている。イエスは模範を示されたのである。イエスが足元に低く座り込んで弟子たちの足を洗う姿をイメージしてみよう。私たちも主イエスに仕えるのと同じように、思いと言葉行いと行いにおいて互いに仕え合いたい。